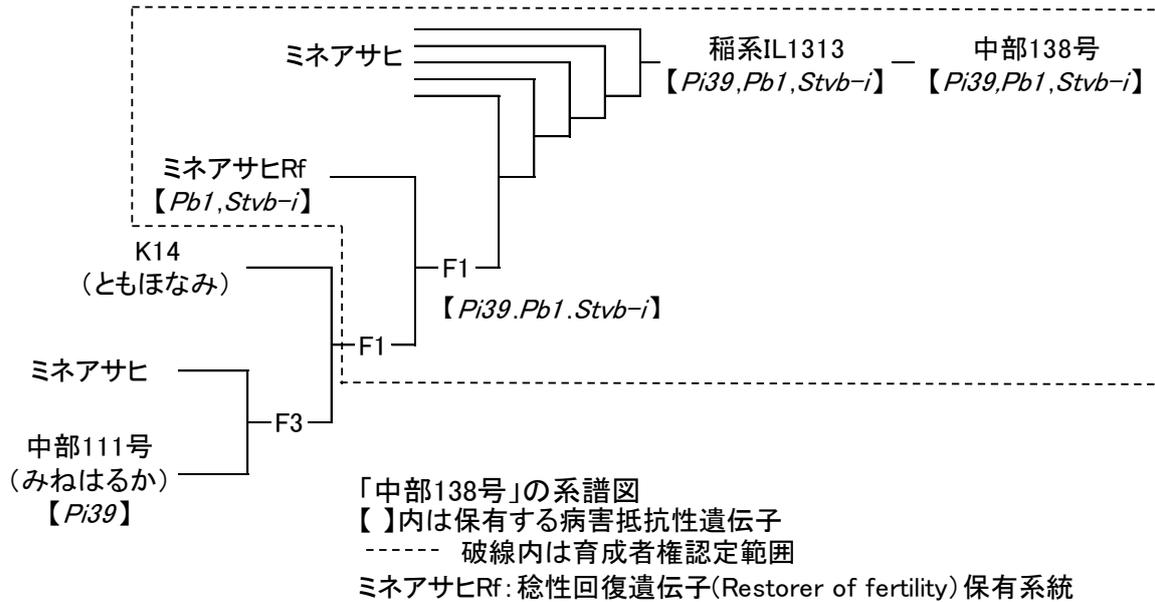


「中部 138 号」の特性等について

1 育成の概略

2006年に「ミネアサヒ Rf」とF1(K14/F3 (ミネアサヒ/中部 111号))を交配。その後、いもち病抵抗性遺伝子 *Pb1*, *Pi39* とイネ縞葉枯病抵抗性遺伝子 *Stvb-i* の欠落が無いことをDNAマーカーで確認しながら「ミネアサヒ」を5回連続戻し交配した。



2 形態的・生態的特性

- 出穂期は「ミネアサヒ」と同日で極早生種。
- 草型は「ミネアサヒ」と同型の「中間型」。
- 耐倒伏性は「ミネアサヒ」と同じ「強」。
- 穂発芽性は「ミネアサヒ」と同じ「やや難」。
- 収量性、外観品質は「ミネアサヒ」と同等。



玄米外観品質
(左:中部 138 号、右:ミネアサヒ)



標本株
(左:中部 138 号、右:ミネアサヒ)

3 病害虫抵抗性等

- 葉いもち、穂いもちともに「極強」で「ミネアサヒ」より強い。
- イネ縞葉枯病に抵抗性。
- 障害型耐冷性は「ミネアサヒ」と同じ「やや強」。

特性調査結果(山間農業研究所、2015~2016)

品種名又は系統名	DNAマーカー検定			特性検定	
	いもち病		縞葉枯病	葉いもち	穂いもち
	<i>Pb1</i>	<i>Pi39</i>	<i>Stvb-i</i>		
中部138号	R	R	R	極強	極強
(対)ミネアサヒ	-	-	-	やや弱	やや弱

注.DNA マーカー検定 R: 抵抗性遺伝子保有

4 食味

- 「ミネアサヒ」と同じで良食味。

食味官能評価(山間農業研究所、2014~2017)

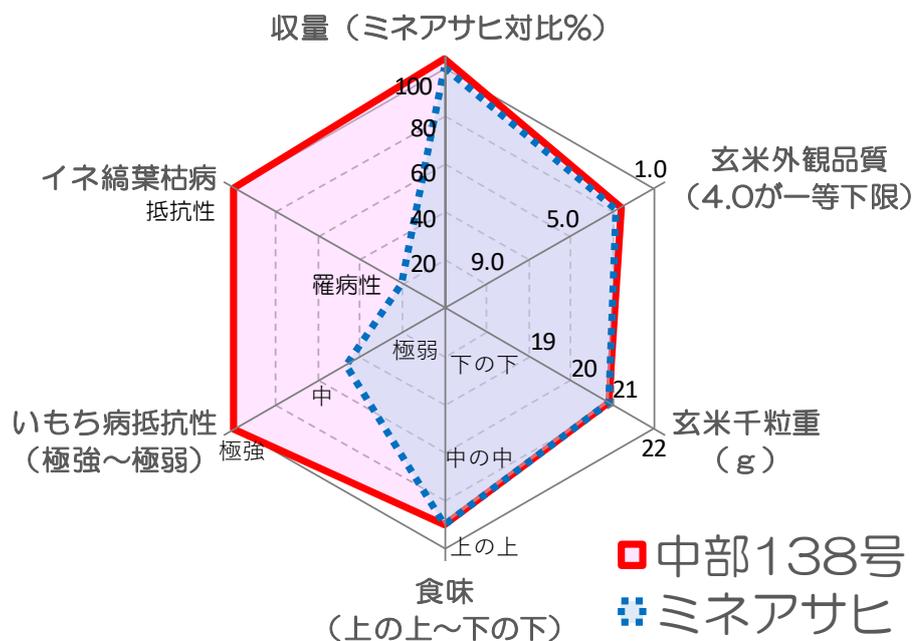
品種系統名	外観	香り	味	粘り	硬さ	総合
中部138号	0.04	-0.07	-0.06	0.05	0.14	0.03

注. 食味検定基準(ミネアサヒ)との比較数値

外観、香り、味、総合: 基準品種と比べて、5(極端に良い)~-5(極端に悪い)

粘り: 基準品種と比べて、3(かなり強い)~-3(かなり弱い)

硬さ: 基準品種と比べて、3(かなり硬い)~-3(かなり柔らかい)



品種特性比較

「中部 138 号」の栽培について

1 極端な疎植は行わない

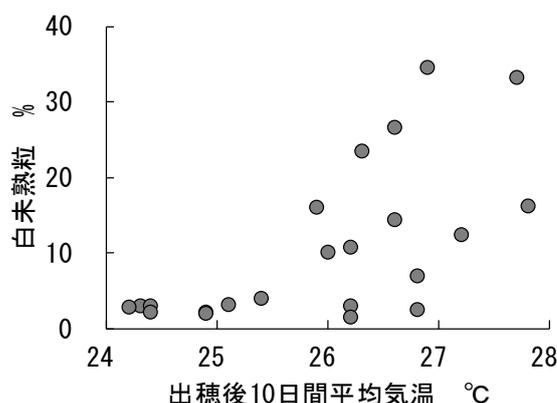
- 坪あたり 50 株は穂数が低下し低収だった。安定収量を得るために、坪あたり 60 株以上の栽植密度とする。

栽植密度と収量(2019・豊田市)

処理	穂数	精玄米重
	本/m ²	kg/a
坪70	372	50.9
坪60	354	50.3
坪50	334	48.6

2 出穂後 10 日間の平均気温が 26℃未満となる条件で栽培する

- 出穂後 10 日間の平均気温が 26℃以上になると、「白未熟粒」の発生が多くなり外観品質が低下する。作期や場所を勘案し、出穂後 10 日間の平均気温が 26℃とならないようにする。



出穂後 10 日間平均気温と白未熟粒
(2018~2019・岡崎市、豊田市、新城市)

3 「いもち病」防除は最低限とする

- 「いもち病」薬剤を使用しなくても病害の発生は認められなかった。よって、「いもち病」に対する有効成分を含まない育苗箱施薬剤の使用等、「いもち病」への防除は最低限とする。なお、「いもち病」への抵抗性は完全ではないため、激発時には適宜防除を実施する。



葉いもち発病状況

4 多肥栽培は行わない

- 窒素施用が多くなると、玄米蛋白質含量が増加する。蛋白質含量が増加すると、食味が低下する可能性が高いため、多肥栽培は行わない。

水稻品種「中部 138 号」栽培マニュアル

令和2年2月 愛知県農業総合試験場 企画普及部 広域指導室

山間農業研究所 稲作研究室

内容に関する問い合わせ先：愛知県農業総合試験場

○ 企画普及部広域指導室 〒480-1193 長久手市岩作三ヶ峯 1-1 TEL0561-62-0085(代)

○ 山間農業研究所稲作研究室 〒441-2513 豊田市稲武町スソガエト 11 TEL0565-82-2029